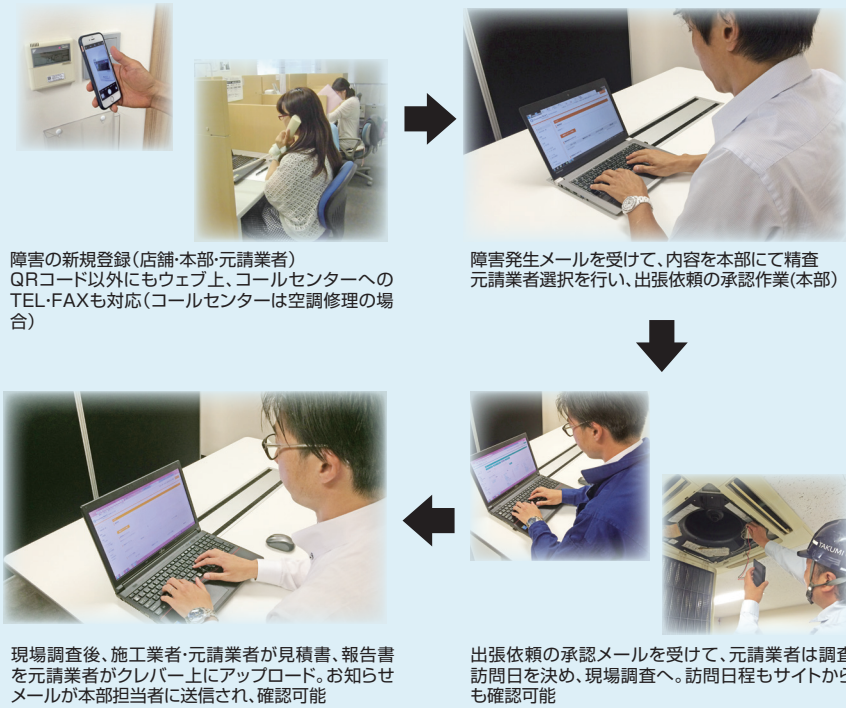


クレバソフトでのメンテナンス・修理の発生から調査までの流れ



過去の修理履歴などの概要を登録し、一元管理するものだ。店舗と本部、元請会社をウェブ上でネットワーク化することで、各設備の

現状把握と迅速な対応を可能とした。修理が必要な場合には、店舗担当者がスマートフォンなどの端末

巧(クレバソフト)

お客目線で作り上げた 設備機器一元管理の利便性

小売業、外食チェーンなどの店舗を中心に空調設備工事・請負を主力事業とする巧(大橋大記代表取締役、本社・大阪市都島区)は、ウェブ上で一元管理できる業務用設備管理システム「クレバソフト」の新たな機能を七月に追加。空調から内装、電気(照明機器)、冷蔵・冷凍機器まで、店舗の設備機器全般を管理できるシステムの本格展開で新たな需要を掘り起こそうとしている。

店舗と本部、元請会社のネットワーク化で修理時間を大幅に短縮

昨年四月に空調や冷蔵・冷凍機器の簡易点検・有資格者点検を初めて義務化したフロン排出抑制法(改正フロン法)が施行された。管理者(所有者)は、店舗に設置している機器ごとに、冷媒種、回収量、充填量からフロンの大気放出が規定量を超えた場合に関係機関に報告しなければいけなくなった。小売業者は自らの手で空調冷凍・冷蔵設備機器全般を管理する

時代が来たわけだ。だが、小売業者が展開する数十、数百店舗におよぶすべての設置機器を本部や店舗だけで把握するのは現実的には難しい。実際、小売店では店舗改装投資を抑えることからの、空調の臭いや音など様々なケースの故障も増えてきているという。

ところが、空調設備のメンテナ



巧株式会社

<http://www.office-takumi.net/>
所在地: 大阪市都島区東野田町1-18-10
概要: 2001年7月に大橋大記代表取締役がイワタニ近畿で培った経験を生かし、空調専門会社「巧株式会社」を設立。13年7月1日に機器メンテナンス管理システムを発売して特許を出願。8月16日に特許庁より特許番号5339564号にて受理される。14年4月にクレバソフトを開発してテストランを開始。16年7月から同ソフトの本格的な提供を開始している。

東芝テクノシステム株式会社

https://www.toshiba.co.jp/tcn/tts/index_j.htm
所在地: 東京都千代田区外神田1-1-8
概要: 1990年10月に東芝テクノネットワークの保守点検(メンテナンス)部門を分離独立して設立。業務用空調システムのメンテナンス並びに修理を実施。オフィスビルから病院・公民館・鉄道車両・工場・体育館・劇場・ホテル・各種店舗・マンション・戸建住宅まで、あらゆる住空間の空調設備を定期的に点検整備している。

ンスや修理には、機器メーカーや修理業者など複数の業者が介在するので、導入時期やメンテナンスの過去の履歴が残っていない。そして修理を依頼する場合には、店舗では業者への連絡、日程調整し、本部では見積書の検討・比較、社内決済など煩雑な業務が必要となってくる。休日に故障が発生した場合には、修理業者に電話がつかないこともあり、修理対応までに多くの時間を要する。とくに空調の利用が多い夏に故障

が集中し、すぐに直したい店舗では作業進捗状況も分からず、日程を業者に逐一電話で確認しなくてはいけない状況に陥る。実際、「夏場には外に出られないほど電話でのお問い合わせをいただきました(大橋社長)。」

そこで巧では煩雑な業務を効率化する「クレバソフト」(クレバ)を二〇一四年に開発。クレバは対象となる設備のリモコンや系統図にQRコードを貼り付け、ウェブ上に設備機器の導入時期や

でQRコードを読み込み、障害情報をソフトに登録。修理の申し込みに、QRコード以外にも専用コールセンターへの電話やFAX、メールで受け付けている。これらの情報は店舗を運営する本部と共有され、修理が決定すると業

者の日程調整から見積もり、完了報告までの流れを本部と現場の両方でシステム管理できるのだ。これにより日程を逐一電話等で確認しなくても修理までの時間やコストの見える化で、作業日程の大幅な短縮を可能にした。

フロン排出抑制法における機器の管理を設備全般に広げる

巧はもともと新店の空調設備工事の設計管理・施工業者として大橋社長が〇一年に創業。歴史は浅いが、大橋社長の営業力を生かし順調に成長を続けてきた。が、〇五年の耐震偽造が社会問題となった姉歯事件と〇八年のリーマンショックで会社が二度の大きな転機

を迎えた。「これまでの新築需要がピタリと止まり、その代わりに既存店のメンテナンス・修理の重要性に気が付いた(大橋社長)」という。

その後にはメンテナンス業界の課題を解決するために、クレバの特許を取得し、テストランを一四年から開始。翌年には本格稼働に入った。その際に空調のメンテナンス・修理の実務作業を東芝テクノシステムに委託。「東芝テクノシステムさんには特別にメーカーの枠を超えて、すべての空調のメンテナンス・修理を全国対応できる仕組みにしたい(大橋社長)」。



巧の大橋大記代表取締役

店舗やオフィスビルなど数多く



東芝テクノシステムの金井徹取締役・サービス統括部長

のテナントでの実績を持つ東芝テクノシステムとの協業体制で顧客からの厚い信頼を勝ち取ったという。

事実、クレバーを活用して既存店の空調管理を依頼する小売業が急増。すでにスーパーマーケット、ホームセンター、ドラッグストア、ペットショップ、書籍・ゲームなど上場企業七社、二五〇〇店舗以上の顧客から圧倒的な支持を集めている。その一つの理由として東芝テクノシステムの金井徹

取締役・サービス統括部長は、「通常はメンテナンス・修理の履歴は、機器メーカーや請負業者が自分たちだけの情報として囲い込

むのでお客様が分からない。その一方でクレバーは汎用性が高く、お客様目線で設備機器を自由に管理できて利便性が高い」と強調。

例えば、実際にクレバーを利用して大規模チェーン店では本部担当者約一名で全店の空調を管理しており、人件費削減につながっている。それぞれの店舗では、空調の管理を本部に任せているので、店舗では販売や接客など本業に集中できるという。

今年七月からは前述のフロン排出抑制法を背景に、現場での故障履歴を確認できる新機能もクレバーに追加している。空調の登録画面に冷媒種と保有量を登録できる

ように改良し、入替時に情報の更新をすれば常に最新情報の確認が可能だ。現場でも機器ごとに冷媒種、回収量、充填量を把握できるので、QRコードやPCのウェブ上からフロン情報もとれるようになった。他にも新機能では店舗全体のガ

スの保有量や過去の故障、修理、補修履歴など空調以外の内装、電気、水回り、冷蔵・冷凍機器全般の現状把握ができるので、障害時に迅速な対応が可能となった。フロン排出抑制法における機器の点検・設備記録簿を設備全般に広げたのだ。大橋社長は、「空調以外にも環境問題の観点から購入から廃棄まで管理を求める動きがあります。さらに今後は改正フロン法も『改正』なので変更される可能性もあります」と設備全般の管理の必要性を訴える。

小売業者は改装などに比べてメンテナンスへの投資を抑えたことから、クレバーのランニングコストも最小限に抑えている。料金は初期導入費五万円。ランニングコストは四〇店舗で月額三万七五〇〇円、一四〇店舗が月額七万五〇〇〇円で一店舗当たり五〇〇円程度となる。店舗数が増えれば一店舗当たりの価格がさらに安くなる仕組み。「設備機器を長期管理するのにクレバーは最適。施工会社

など同業者さんも含めてクレバーのシステムだけでも使っていただければ、その良さはご理解いただける」(大橋社長)。クレバーの初年度売り上げは一〇〇〇万円を目指している。

巧では空調の枠組みを超えた設備機器の寿命が分かるアラート機能を搭載した新たな特許も取得済みだ。空調の設備工事・請負から、設備全般の管理やメンテナンスに役立つソフト開発へ。一気通貫の新たなビジネスモデルの確立を加速している。

巧株式会社

代表取締役 大橋大記

●事業内容
冷暖房設備・給排気ダクト、給排水衛生工事・電気設備工事、設備機器販売、設計・施工・管理、メンテナンス業務の請負・メンテナンスシステムの運営

●創業

2001年7月

●資本金
3000万円

●売上高
7億9000万円(2016年6月)

●所在地

《大阪オフィス》大阪市都島区東野田町1-18-10

電話：06-6356-7801

《東京オフィス》東京都港区赤坂4-2-8-5B

電話：03-6435-5017